

## 環境側面からの基本施策～環境分野の課題への着実な対応～

## 環境と人・地域社会

## 総合評価と今後の展開

身近な環境について市民が楽しく学ぶ「よこはま環境行動フェスタ 2011」や「ヨコハマbデイ」を開催。また、生物多様性について、市民生活への普及・啓発を図るため、企業・団体への環境行動の表彰や、環境活動団体への支援を実施。

引き続き、多くの市民や企業が参画し、活発な活動をしている企業や団体と地域が結びつく機会を創出するなど、環境行動の輪を広げ、「横浜型エコスタイル」が日常生活に定着するよう取組を進める。

## 【平成 23 年度の主な取組実績】

- ・「横浜環境活動賞」を 11 団体に表彰
- ・環境教育出前講座(学校版：100 回、地域版：23 回)
- ・青少年を対象とした自然・社会体験プログラムを実施(1,853 人)

## 環境と経済

## 総合評価と今後の展開

市内中小企業の震災の影響による電力不足への対応策を重点的に実施。また、横浜スマートシティプロジェクトなどの取組が国際会議で高い評価を受けたほか、公民連携による水ビジネスの国際展開など、環境ビジネスの海外での展開が大きくスタート。

平成 24 年度は、環境・エネルギー分野における中小企業の新技術・新製品開発等への支援や企業間連携の促進、省エネ・創エネ及び節電対策の設備投資への支援を大幅に拡充して取り組む。

## 【平成 23 年度の主な取組実績】

- ・市内中小企業の節電・省エネ対策への支援
- ・「横浜デイ in Smart City Week 2011」をパシフィコ横浜で開催し、横浜市や市内企業が持つ環境技術・ノウハウを紹介
- ・横浜スマートシティプロジェクトの取組を国内外に情報発信
- ・「横浜水ビジネス協議会」を設立し、海外での環境ビジネスを開始

## 環境とまちづくり

## 総合評価と今後の展開

「エキサイトよこはま 22」(横浜駅周辺大改造計画)におけるルール策定に向けた検討や、みなとみらい 21 地区における低炭素技術の導入など、都心部のエコまちづくりを推進。また、コミュニティサイクルの社会実験の開始など、徒歩や自転車、公共交通を中心とした交通体系の形成に向けた取組を推進。建築物対策では、脱温暖化モデル住宅事業を実施し、環境に配慮した建築物の普及を推進。

「環境未来都市・横浜」の実現に向けて、水や緑、港や歴史ある建物、環境に配慮した住宅などのある多様なまちなみが、低炭素交通網やスマートグリッドで結ばれるとともに、災害に強いまちづくりを進める。

## 【平成 23 年度の主な取組実績】

- ・MM21 地区ビルへ次世代BEMSを導入。統合BEMSを接続
- ・モビリティマネジメントを実施(3 か所)
- ・コミュニティサイクルの社会実験開始
- ・十日市場町において、脱温暖化モデル住宅を一般販売

## 地球温暖化対策

## 総合評価と今後の展開

平成 22 年度の温室効果ガスの総排出量(速報値)は、1,925 万トン-CO<sub>2</sub>で、前年度と比べると 7.1%増加。京都議定書の規定による基準年(平成 2 年度)に対しては 14.2%超過。

震災以降、エネルギーの安定供給と自立化の必要性が求められる中、横浜スマートシティプロジェクトの全市展開や、「横浜市節電・省エネ対策基本方針」に基づくより一層の省エネ推進などによって、持続可能な低炭素都市の構築に向けた取組を進める。

## 【平成 23 年度の主な取組実績】

- ・住宅用太陽光発電設備の設置補助(3,368 件)
- ・電気自動車等の導入補助(374 台)、充電スタンド導入補助(50 基)
- ・「エコ活。」の取組(環境家計簿(約 23,000 枚配布)、子ども省エネ大作戦(34,863 人)、ヨコハマ・エコ・スクール(466 講座)を実施)

## 水とみどり

## 総合評価と今後の展開

「横浜みどりアップ計画(新規・拡充施策)」に基づき、まとまりのある樹林地の保全や、地域での緑のまちづくりの取組を推進。また、良好な水環境づくりに向けて、雨水貯留タンクの設置助成や雨水浸透ますの設置、浸透性舗装、多自然川づくりなどの取組を推進。

今後も継続して緑施策を実施していく必要があるため、これまでの取組の実績検証等を行った上で、平成 26 年度以降の緑施策の考え方や枠組み等の検討を進め、素案を取りまとめる。

## 【平成 23 年度の主な取組実績】

- ・緑地保全制度による緑地の保全(1,130ha)
- ・園庭・校庭の芝生化(32 園 49 校)
- ・「みどりアップ」しています！宣言(3,529 件)
- ・雨水貯留タンクの設置助成(149 個)
- ・道路への雨水浸透ますの設置(1,081 個)

## 食と農

## 総合評価と今後の展開

「横浜みどりアップ計画(新規・拡充施策)」に基づき、農業振興、農地保全、農業の担い手育成・確実な担保・継続保有の促進を柱に取組を推進。

引き続き、都市における貴重な緑の一つである農地の保全を進めるとともに、市民が身近なところで地産地消を実感できる取組や農業の担い手への支援・育成を進める。

## 【平成 23 年度の主な取組実績】

- ・多面的機能を持つ水田の保全(109.7ha)
- ・長期貸付農地の確保(32.7ha)
- ・農ある地域づくり事業実施地区(11 地区)
- ・農園を楽しむ世帯数(6,542 世帯)
- ・地産地消新ビジネス事業への支援(3 件)

## 資源循環

## 総合評価と今後の展開

「ヨコハマ3R夢(スリム)プラン」に基づき、市民・事業者・行政が更なる協働のもと、3Rの推進、とりわけ最も環境にやさしいリデュース(発生抑制)の取組を進めるとともに、なお残るごみを適正に処理することで、限りある資源・エネルギーの有効活用と確保に努め、環境負荷の低減を目指した取組を推進。

「ヨコハマ3R夢プラン」の 2 年目である平成 24 年度は、「3R夢アクションの年」と位置付け、市民・事業者自ら3R行動を実践していただけるよう、様々なメニューを提供するとともに積極的な働きかけを進める。

## 【平成 23 年度の主な取組実績】

- ・発生抑制(リデュース)の取組を実施(3 取組)
- ・生ごみ回収・資源化調査
- ・資源集団回収による古紙回収率(93%)
- ・産業廃棄物多量排出者等への自主管理計画の策定指導

## 生活環境

## 総合評価と今後の展開

市域の環境状況は、法に基づく常時監視や定期的な調査等により調査・測定を行っており、平成 23 年度は、光化学オキシダント、海域の水環境(COD、全窒素、全りん)が環境基準に不適合。

引き続き、近隣の自治体や関係団体等との連携により、各取組を着実に推進し、安全・安心な生活環境の保全に向けた的確な対応を行っていく。

## 放射線対策

市内の公園や市民の森、保育所・小中学校の園庭・校庭、市民利用施設周辺のほか、水道水、食品等で放射線量を測定。今後も継続して実施し、市民に情報を周知していく。